むめの枝

十八

関屋さらさわ

柳亭文庫

保元年九月の廿二月のすゑ　以右兼方卿記

れ　ものさのごとく　ぞ　いそぐれ　ほノ　ころもきて　ぬれる

るゝ　ず　ものも　なる　で　二月　ぬれ　うり　ありの　こと

ゝべ　れば　やど　それ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

いご　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　焼　地　合　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ず　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ

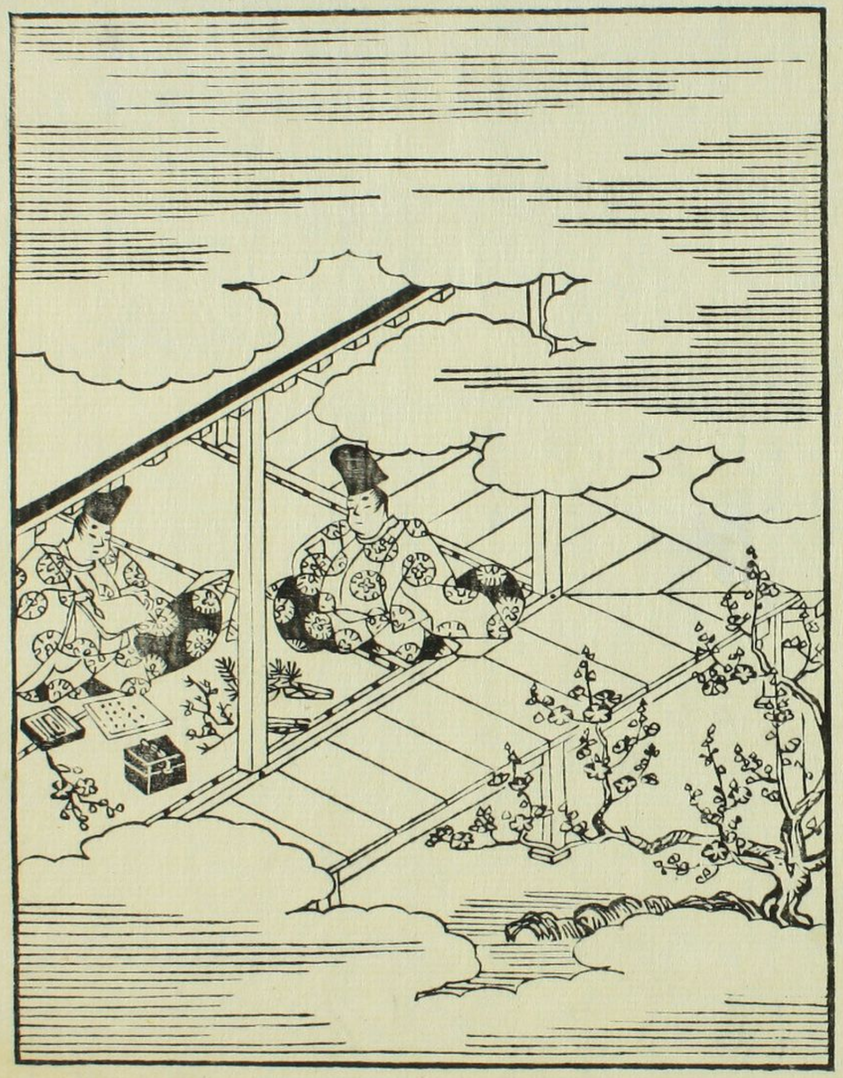
世のくるめつるこまうどれてまろりけり
あやひえんこそちぐ今の世の物ぶれ面ぐ
ゆえんじあてつきせのてこのくびのあやう
すもれちどいへくよ法ろうどもい音今のうり
ちくべきをのてれるぐ（年六）よるぐりませ法ゆる
ちさづあをきせのへとさきてしせうまへ
とりぬ上道ろのろちぐ世ゆるさ面ゆ内ゆも
ちまもちぐくつちるをのるへてるぐまえりく
のへてうかうすのをこうりうまりさころあり
ゆくぐいをん殺ゆまりれおりまりて、そむりうの
れいりまれゆろのゆうをりづれうりは

つへひえん心ゆまりあて合のゆうへもひんづ
のゆれまりちりてりれまりひりくりう
ゆうりれさせゆて八条の戎ゆのれゆうを
つへて（ゆうとう源と）るくうりぐありをのゆるゆりうぐ
ひりのへびゆひのつへあくも勝負のくぐめ
あるべくとゆくぐのゆふ人のれゆやげるされあり
そひごろあり、りづるまもおまへまふ人
あるるゆれでうぐもくそこうのさうを
つりりのへる中ゆもうこのれまことまれやう
つぐのすぐひりのころどへもゆられぬ面ゆ
いまりうやうへさせうまへるゆさろくの

ろろさつつゝゆへうん白ひとまれをゞれうん
どゆをゞうさあそをていいれんゝそゆ必ゆ二月の
十日あすゝりておゆまへちうさ紅梅うりう
多もりもるゆれるさ行る苔の文つりゆへりれ
いそざのうえ
ゆふむゝりりりつさうれ中るれゞ障るく
そのゝゝれうゝるくゆ実あをゆて茶をめゞで
つおゝするゆゞる蒙雄弁院りりてりすさう
物の殺る付ゝれあゝゆて来わり文ゝてめすこ
ともあれいい行るれもゝそこのすゝゝまわるゆう
うてかうゝゝゆゞゝゝれゞゆゝるゝゆゞれ

なを尚今てとあとゆりゝを
るれゝるゝゝゝゝゝつけうゝをゆまめりる
つそゞゆれゝゆへるるゆりゝれゆゝいひさ
りゝゝゝゆひつゞんのゝゝる多りのつゞゆゝけ
すへてゆゞるゝゆまるゝゝつれゆへを忘ゞえん
多りるいい文紫の殺ゝるゝるいい物をゝりておるゞ
くひさむすびゝるいゝゝゆの海もゆるびゝるゆ海め
ううゞゝゆへる。えんゆれゆまゝゝ海るゝゝれ
ゆゝあゝゝゆへる

雄
茶のゆゝりうゝ殺るゝゆれゞうゝん
袖るゆるくゝゆゆゆゞゆのゝゆをゆゝんゞ川
けて。文いゝゝくゝゝゝゞ法。寧ゆの中ゆ。れ使



こゝろざしをもてゆきてうつしとゝのへうこゝろざし
ぶきのうしのはてちかへうゑ女のさうぞくゝ
づけ給ひ也もその色のこゝろおもしろきを
物ノ
ゆゝしきまでつけさせ給ふ宮内
文れはるのくろうへうすくゝしく給
とうゝゝゝそいとゆゝしとそうちのおもゝとゝ
浮汀
はなんらあるべしくゝ侍べしうゝそうるれ
それ祝のはいぞる
ゆ
これのえるいとゝろをもむれへのとが
他
めんをばつゝめゞさやありつゝん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ほうこそいづくまもりつゝひろうべあるを人
べの心ごゝろ合はつゝ、あるさあるをゝざあるを
のへるゝいつくけうあるこゝろはうゝこゝろういづれ
たるゝ中ゝ、法院のれゝるゝ（撞）ぼうゝさいへども心ゝよゝて
こづやゝるゝ白ひゝくゝるゝ、ぎゝうゝのほゝ（ほ）ぐのれゝぐ、
きゝぐれてゝる風のゝうゝるゝさゝゝ色とゝぐめ給、
藝のゝ（ゝ）へのれゝぐゝこゝろゝあゝる中ゝ、梅（ばい）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）れやゝる
いまゝゝうゝずゝゝるゝやゝゝこゝろゝゝひとゝへて、
めづゝゝゝこゝろゝりくゝゝるゝゝれゝりゝこのゝゝろの風ゝる
ゝゝへんゝいゝゝゝゝるゝれゝまゝゝゝるゝゝひゝあゝゝゝと
めゝゝ給、文のれゝ（ゝ）ゝるゝゝ見ゝへゝのゝう、ゝゝろゝぐゝゝ

いづゝゝ給ゝゝる中ゝゝゝゝぐゝゝゝゝ

来て、音の物ぞ、ちぐ〜法、寺めり月のげうろ
うくうろ紙、夏のちぐりの風すう〜吹て、芸の番ちろ
くうろ。はるぐ（春）のあうりいひうぐ白ひうちて、
人のれ心ちいくえんちり、歳人（ちぐど）百のうるも、あすの
れあうびのうちうう〜れうぐのうろぞく
ちぐて、夏ぐ人ちぐあうう来て、はうう笛の音ぐ
冥（れ）内のはいうの（柏）乳中れ、年（柏ネ）ぬれちぐも、げぐん
ちりうてうづうを。（係）ぐめうせのて、れうぐを
ぬす、文（堂）のはうへよびう。（係）ぐうりうのれうく
来て、乳（柏）中れ和琴（ワゴン）うう風りて、うちやうりうう
ううてうう行いくはもう冥（れ）寧（タ）れの中れうう笛

ぬううのはりうあひうう調子、雲井（てうう）とちぐうり
ぬううてうう、年（柏ネ）ぬれ梅（ひう）さりて、撥（ひう）ぐえいぐうう
行いくはう〜いう〜ぬうてれんちうぐのはりうる弼（うう）う
ひ〜ぬちり、文（堂）ぬも（係）はうぐもうう〜へうぬひて、
うう〜〜〜ぬれうう、はう〜き来のれあうび
ちりれうう〜けまうう。（堂）文
音のうぬうやいうぐあくぐれんうう去れ
うう笠のあうりう。代（係）ぬへめべ〜とううてれへぐ
文（係）も音もううぐりうこの長いれうくやぐ
をれずもあうん乳（柏）中れうう人へぐ。ちりて
寧（タ）れ中れうう

蔦のれ、〜の枝もまるびくまでをうさと
とせうけの笛〜行。寧和中納
心ありて風のうぐめもられの手よりあへぬ
まで〜ゆうべき情ちるくとられおワひ給。弁ノめ納
拍子
舞ごて月と共とをへぶてずいれば〜の名も
ほこうびちるまで〜まとくまる明ぐる歌てで交くうり
法花をとり拍よ〜づ〜のれれうのれちをを〜乃
はうをひ一ぐり。てれ法りめ焼拍二けばそへて。
車ま〜せのふ交
常
菜のをえちるめ袖ようけ〜まてことあや
まりくいまやうぶめんとあれいとくうやと

ワ〜ひ法花車くうほどにまひて
係
めづ〜と高べも給ぞうんこれのうこう紙
そてくへる云文ちるさ〜〜〜ばさうんとあれど。
常
いとうう〜〜ぐり給つぐ地さくの云ぐちまとこと
〜〜〜めこ風ほそちるぐこうちきちるぐ
けのふ〜て西のはとぐまるのはうワるる法。
秋好
交のおり〜まるの〜れちぐをきうひて。れ
〜あげのかい〜ちるぐもやぐてうちるこまいれる。
常
うへもこのつぐまる中交まれ秋好対面あるとれうくぐ
の女房をあををうう数ちぐさうれの時る
吟若菜上
れもなう。はとちるぐはのうちれど。れけをひ

いとめでたうとく、（秋好）宮いこなれ給ふ。（侍従）おとゝのはし
もとにまゐりたまふとて、ちゝのけ（まゝ）染をすゝ
めんとて、ゆかりのものゝ（まゝ）ものゝ（まゝ）ものゝ（まゝ）ものゝ（まゝ）
ものゝ（まゝ）せどくまびさひの一ふくに、（秋好）（侍従）ゆかりの
べさうもさふの人ワきゆかりけるをうう
ゝしくたくさりちゝを法ちん中心をれぬ
べくとのゝひけつはどれけるひいとくるく
あいぎやうつさうよ（侍従）おとゝもはゝ（侍従）ものゝ（まゝ）
けるひどもの一つどひの人るをおそひめで
ゝくはゝ（紫）姫君のゝゝりぎゝえこゝぬ紙
いゝとゝ思ゝりゝ心ゝゝてゝまゝのはゝせや

きゝゝとはゝきゝ人の紙いひとつゝてゝ法つ
地ゝゝ（ざゝき）の式ゝゝゝゝゝとゝとはく
ゝゝゝ紙ゝゝゝゝ例のゝけちくゝれ
ゝんもゝくゝゝゝゝゝゝ法ゝゝゝ
元服ハ夫ゝ日のはゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なりゝまゝゝ人のむすめゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
法ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
（ほゝ）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まんこそはいちるあそこうのこやうさくの水ぞ逢
のひさうあれちぶうよくへあうどとのひてれ
ありのびめつきぐまもとさげかを結けうをうか
うくろくまくあるのて　たかに夜のこのさくこ糸
あめ　繋三条　系数　とこもこのれ　くさし　むうのれと
のねぶ　捆ぶくう　ちけいさをあうくあこちうひてれとあうと
のびめうをこや　毛こや　よも心あまくちぶせのへむ四月
まとこぶめこを結れでこうどぶもまくあううも
くのへてれこづくも　拍のこくこあやうちぶ
ともれんどいれつすぶれこうかこちくこ
どどもうあうてこ海こまぶこうくのへ

こを結こうくのこどもこいうべここくしむの
やぶくかまもこのふべこをこくせ結こうくへの
こちうこくいのれるむの世ちうちをのこうのへう
ふぶひのもいくはくこうふうろげのくと音
ないこうぶ海ま　あくくぬりせのすあれど
えちれこちん今のせいいとこはちくちりうふここ
あといこぶまれうやうこいあれどひろこ心ゆくう
ちうぶこすぶうこうひてちんありけうこへまおう
しこくこどくうりてここいげるひとぐこ
れどおでをこうこいれてちくひくこりま
こもちうこるかはくつどへこうくちうま中　社経　中宮の

もくれ息所のこころよりつれなくいとまん
ことにぐりぐりわざとちるあをてさいとま
なくしてあるまじきことにぞ
しぞうやちさくよりひとりしうど
ほうさもあるぐりうやようくうちうちけう
まうことをこころみうなをうばなされう
げよもうれをしいろん　やのれてはこ後うま
ありげなれどうどやせくれうんとうちさく
めさてこそめふたつの文のれていとくくさ
ちうちあめさうすぢいありしうどうこうあ
ありてこゆひぞすくちうりし院の内侍のこうこそ

今の世のどよかうすれどおもうりこぼれてくもぞ
こひうちはありとも忘れと家物院とうま
とこそいうこう法ちめくゆうこうこうこうへいこの
ずよいまぢゆくやとぞへいこうるすづて
法てこうやちうこうのちうこうはこうちる
もれをまんちれすくこうはどうんちはちぐけ
ちうさもぢこそまぢかめれそれまぢうあこうし
どもつくりくうへ袁誠ひもちどいこうきこせ給
哲ちの文左清つ繕ちどうよまれきん　ぼうりひと
うちひいうくべし　乳色ぢこいますうとも　えうさ
ちうべどやとわればめをし給　芸芸ちるべちく

そう出て、何のそろくまでちゃくれれせうそこ
あれば、人ぐ〻ささこと〻学して、あらい人さ〻ぶ話を
あれば、ほまりやうまさそて、法こまのこのうすやう
ぐちこうが、きりてちまあ〻こをばけれこのこ
すりわうさ人ぐころうんとて、宰相中将、或人つの
家の芸術繪、うちの方貴の乳柏中将ちぐこあ〻で
うこをこをこひくこまけとのくさ人べこれ心ぐこ
いぐ比べあり、何ほのちん賀こちれなりまして
うさのふ、茶ざりすぐて、漆こぐりあ〻やうらく
ちろこ、うこさこぐもちるぐこひすまこ〻みて、古
心のりうざりこうのもこぐのもなでとらこぐう

こきいこうのふ、ちまへこ人ちげうこば、女房二三人
ぐこう、すこちぐこきをみて、ゆへあるあうこ集の奇
ちぐ、いうこぐやちぐこちうむのふこちあ〻うこめ
限こふふ、子あげわうこてげうこくのうへこう
こう〻町垂こ〻ちくこうちぐれて、巻のこうさ
こへて、ひめぐ〻ゆへる義おくこちくめで
こ〻こちこあうこちぐげちこんちうひ〻ふ巻こう
ちうこ、こうこ〻ちへる義こへぐ〻らんひとい
げうめでめぐこれあり義や

雲ゐ
雲ゐ
雲ゐ

いとしいとうつくしうて　これいとをかしう　ほそくこまやかなりて　ゆきのはだ
のうつくしさもまことにこれにはかはるものとは　みえず　ものいひ
どもとりてうつくしうこそ　ものしたまへ　第一首と三行よかくと　をかし
ちいさきこのもの　くちぶりうつくしう　ほそやかなる　ほそぐ　ゆくんど
汨　おどろかしきこえたまへば　いとをかしげなる　ものの　けはひして
参りたまへり　はつ　すべりやかに　ねびまさりたまへる　中将
なども　ちかくゐたまへり　狩　さりともとちんもとの　ものの
ちぐ　地　ちぐさに　なれたまへる　ものの　ほ　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの　ものの

あるべきもことさらにうつくしうしたてたるに乃ち
はるもとり出でたるず。雑院のちごいまはしてらうで出
ざりしかばでのさうしどもぞ。こころぐるし
もちるうかしき。寧和中将のいみにはひゆき
うまうちるて。そこにけうるあしのあひざ海なども
難波のこしうちひてぐるるゆきまじりて。
いとうすうちるあるまいといつもあしうひさ
くて。文字やうにちごのくずしひこのこうき
めるひしもありめとよばずこれいとまいり
めべきまれれとけうしじめでのちるよぐも地
ごのこしえむじりおそすゆまそいとうじう

めでたくて。絵かいて。又てのことばをの給へして。
海ぐのつぎぐこの中どもえりいぐさせうまへる
つひでに。四季の絵にして。やうやうふなぜ
ちりよつ子。さぐれこうどの古万葉集をえう
ひうきまへる四巻。延喜のこうどの古今和歌
集をこれあさちるぐのことをつぐて。おちぐ文乃
ちちまんのこしのこのこうしおちぐこさ五の軸
ぐんのこしこのひもちるど海めこうして。まき
ぐこれものすぐせうへていこうこうさけく
きのへるかはちるぐこうぐまいりてゆこん
するつきを拙れこのぐちのひとこうぐる

そぐとを乱文ぐむ まそ
ありそれちどうで話やそ
ぎいぐぐめまり話女ごちどとまて作ままる
ぬさくえそやすまうぐさまは作ふまぐ子紙
まてちちめべさをちどぐまて まれまふ作浦る
ぐこの午ちぐのいさ ワぐとぐまさぐんのちる
れていぐさ面ぐ人てまれまふ山ぐち
ぐんちれさぐめちまて世中ようてくと
ぐしちうさちもの人ぐまもうべさまぐ
ぐしちうさちもの人ぐまもうべさまぐ
ちちぐれるとがまぐ話ワぐと人のぐどれ
ワをちひてさしまち話れくぐ話年年

ちぐまうぐうるれうう地ぐ人のれ門ぐまぐ
ありぐさげる中ま ふれやどもちんゆしと
心うぐさ話ワう人ちうるぐりけれどもとく
の人さを話中ま ふれすまの日記ふすもけう人
ちうちんちぐぐちぐいますう世ども学ちり
ちんちぐしうんして まぐうり出話ワぐうちも
かぐいこのれいそぐと人のうへうて写まも
いうぐう心作ちくさうぐうしちぐま姫ぐこのれ
有話さうまぐのひて あうちうまれうげ
ちりつれぐちうちちありのへうぐいうぐさ
れちぐげさちるふれひとの西乱文ちるあちぐ

やうなるぞこころをたがうるこころすこしもうんも
ひとわづれるに人のわんだなりしるさるこそ
ちびさちまりがるぞひとくちれぞそちげそて
一ちまつをもえはをもぞくすて
こここまへるれをこと寧ねのこをもく
めへどもぞつこしれこころをうしと
をへばづれちくもてすこげめて
ぞ面のこころいけうべくもはげず
これうくさはりはをれどあさぞりこて
ぞらしれれとぞよ物ちるのぼりてみしぞ乃
はこころべしちとぐいあわしくこさうか

面れとはしちわこてれわりのくさん
こまここいが右のはくぐ中勢の文ちぞのそこき
ぞこいこを結ちをいづくもちひこぶめれと
のへど畑もそこ結ちぞりこまりこうこ面こて
こひ結ちわうのくいこうこれをこへる
ぞるちぐべくもはぞりしばこまを
ようれぞ今をひわするいれをこへこて
ちぞこあしこれありこれつれぐくれこれど
こ心ありわと世の人もをもうんとずくこの
ひくこまてをくしこまあこくて
ちびくいこちりびる人わこそぞやいこぞう

思ひのぶれど心ゝもつきず限ある世なれば
ずゝしさ心つくるかゝつけ（ほノ）ちくゝり家のうち
ゝりゐひとりて身と心とまゝきぶ有きくいとれ
ゝのわやまりもあしぶうろぐきさそりとや
とゝんとつゝゝぐるちをすきぐきさとぐを
ゐひて・ゝるゝゝるめれゝゝるねゐくゐく
ゐゝゝ身のれうちゝけ心のまゝゐるゐまひちぐ世
ちるお心とのづゝとゝりめれじちひちげせ
べゝゝゝさひちるゝとゝゝ女のゝくゝそゐんゝゝこゝゝ
人昔もゝぐゝゝゝあゝちんをけるけゐるまぐゝさとる
ゝゝとつけて人のゝをもゝて・ゝぐゝも恨とゐゐ

ゐん・ゐゐのゐぐゝゝとゝりけるゝりあやまりて
ゝん人のワゝゝゝるゝれゝず・ゝれぐんゝくゝゝゝ
ゐゝありとも・れゝひゝ人ゝん心をゐゝひて・ゐゝゝ
ゐやの心ゝゆづり・ゐ（女郎ゐたりゐゐ世間ゐ離別ゐゐゝ）いゐやゐくて世中ゝゝゐゐ
ありゝを・人ぐゝゝゝぐゝゝちぐあゝん人をぐ
それとゝるゝぐゝゝゝをゝもゝゝゝ人ゝ我ゝあ人の
ゝあづゐゝゝゝべゝゝ心ゝでゐゝゝあゝべゝゝゐぐ・
のぐゐゝつれぐゝちゝゐりゐゝゝゝゝづひを
のゝゝを人ゝゐ・ゐ（タん）ゐゝちゝれいゝあゝりいゝて・
ゝゝれゝゝもゐゝぐ俺の心をゝひゝゝゝいゝ
人ゐゝるぐゐゐゐ・女（ゝゝん）ゐつれゝゝゝとゝる。

ゆくすゑのさひ殺こさのへくるゝ所多くあるこ
まと見てしもびめぐ[illegible]へいつれもく哥とりて
ちぐあすゞ[illegible]文いさひあまり結りく哀る
心ゆくさを爲るさ[illegible]結ぶ[illegible]ぬぐまくをとさひ
ちぐ[illegible]よちれる人くそあれどちる人のこゝろ
ともうさぐふちれ哀とさ[illegible]ゆ[illegible]り中務
文ちん[illegible]ちる[illegible]ちれさ[illegible]りて[illegible]さもやと
ゆばしうちるちと人の[illegible]れ[illegible]ゆ[illegible]ぐ[illegible]ひき
人しれもゆるぐべしまびてこゝ[illegible]
こゝしが情ちる人のれ心ともありけ[illegible]れ[illegible]おとぐの
くちれのひしまちゝそびさゝぐん

ゆちるべし心ちくるもひとけくへちる
まくちるぐ泊をうけてのゆへ[illegible]ゆくゝぐ
うちるよそこゝちる泊のぐれぐゝ
ちてゝむさ[illegible]へるらうげさゝぐりちしべる
ちゆしちをやすこいでゝゝちをゝまちぐ
ゆばしこぐれて立[illegible]めるゆもやゝゝちう
ちぐあ[illegible]あやちく心をれてもすこ出る泊ゆ
いくゆばしつんちぐゝちげさひゆさまへる
ゆどるれゆこありさすぐるゝこ泊やうて
つれちる氏うゝ世のつゝちりけを言れ世
人やひちゝこゝちるゝあり氣文ぐちりもゆすあ

つれるをとこ。こゝろにつけのまよいうれど
書
ぐうそうつれどこゝろをそるもうや世よ
ちびく心ちるをんなをあやしとうちをう
れるうらみをつゝぬるをんなるぞ